

やまぐち子育て福祉総合センター実績報告

平成29年度 山口市地域子育て支援拠点研修

0・1・2歳児の発達と環境 ～子育て親子の健やかな成長のために～

日 時・・・8月1日（火） 10:00～11:30

場 所・・・山口市立山口保育園 2階遊戯室

講 師・・・NPO法人下関子ども・子育てネット 代表 今村方子 先生

参加人数・・・59名

内 容

1 はじめに ～今拠点では～

発達と環境の視点から親の姿、子の姿、親子の姿、拠点の姿を捉えなければならない。

未来社会は、身近な人々がそれぞれのペースでその人らしく生きることを支え合える関係の原型は、夫婦・親子関係にあるのではないだろうか。

2 保育所保育指針（H29版）に見る0・1・2歳児のねらい及び内容

○第1章 2 養護に関わるねらい及び内容

・生命の維持／情緒の安定 ねらいと内容が4項目

○第2章 1 乳児保育に関わるねらい及び内容

ア健やかに伸び伸びと育つ／健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力の基盤を培う。

イ身近な人と気持ちが通じ合う／受容的・応答的な関わりの中で、何かを伝えようとする意欲や身近な大人との信頼関係を育て、人と関わる力の基盤を培う。

ウ身近なものに関わり感性が育つ／身近な環境に興味や好奇心をもって関わり、感じたことや考えたことを表現する力の基盤を培う。

○第2章 2 1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容

・5領域（健康、環境、人間関係、言葉、表現）になっていく。

・ふりかえりに役立つ！発達表（田中マユミ、増田まゆみ；自己評価につながるMyふりかえりノートより）を見ながら、乳幼児の発達を再確認 → 子どもの育ちには道筋があり、それをどういうスタンスで育ちを見ていくか、保護者と話し合うことが大切。

・発達年齢別子どものあそびには、身体・構成・模倣・受容・感覚遊びがある。

各年齢によって、遊びも変わってくる。

3 拠点に見る環境と0・1・2歳児の姿

スライドで下関市の子民家「こどものとなり」・子民家「こどもの宙」・「こどもはらっぱ」の環境や活動及び子どもの姿を視聴する。

4 0・1・2歳児を持つ保護者の現状と課題

- ・利用者の相談内容は、食事に関することと発達に関することが突出している。
- ・子どもが主体性を育む過程は①知覚する②反応する③把握する④聴くことで、モノに応答し、ひとに応答し、ひとに共感し、ひとに協働することで育まれる。

5 子育て力を高める支援とは（人的環境としての支援者の在り方）

○自立を促す子育て親子とのかかわりには

- ・受容的關係 ・応答的關係 ・共感的關係 ・協働的關係が必要である。

○真の発達を育む新たな保育に向かって

- ・乳児・1歳未満児の保育は、非認知能力・愛着行動・基本的信頼感・自己肯定感・社会情動的スキル・環境を通じた教育、保育・養護と教育の一体性・発達の連続性に応じた学びの連続性



- ・幼児期の終わりまでに育ちが期待される10の姿

ア 健康な心と体 イ 自立心 ウ 協同性 エ 道德性・規範意識の芽生え
オ 社会生活との関り カ 思考力の芽生え キ 自然との関り・生命尊重
ク 数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚 ケ 言語による伝え合い
コ 豊かな感性と表現

○発達と環境のあらすじ

- 発達とは、ある特定の道筋を得てこどもは成長発達するということ

- ・身体、こころ、頭の成長発達
- ・大人による豊かな体験の拡散と集約が必要（ゆっくり、くりかえし、はばひろく体験）
- ・道筋を想定した環境設定（遊びの場）が環境として準備されるべきである。

- 環境設計のために子どもたちの声を聴く

- ・さまざまなタイプの遊びのために遊びのエリアが提供されなければならない

- 利用者と支援者の違い

- ・利用者は今現在のことで捉えるが、支援者は未来を見通して捉えることができる。
- ・利用者はできるという現象で捉えるが、支援者は発達の最近接領域（段階）で捉えている。

6 おまけ（あそびうた） 子どもの集中力（みる力・きく力）を鍛える微細あそび・指あそび

○わらべうた

- ♪「おすわりどっせ」
- ♪「こりゃどこのじぞうさん」
- ♪「あかちゃんあかちゃんなぜなくの」

○♪「きんぎょのひるね」

ミニペーパーサートを持つての歌あそび